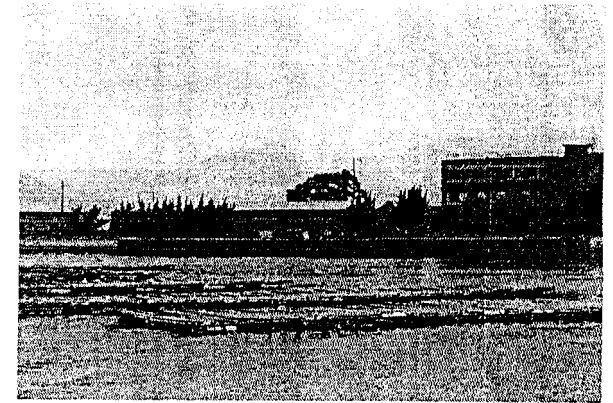


長野構成員ヒアリング 参考資料

愛南町の精神保健医療福祉住民活動

資料

社会復帰施設平山寮 発足目的(S49年・渡部嵐)



- 病とともに、帰るべき家庭を、生きるべき場を、あるいは又、続くべき人生を見失った人達がいる。それらの人達が、共同生活の場と通して、自分達の手で自活の道を開き、よりたくましくなり、うまくこの現実社会を乗り越えてゆけるようにとの願いをこめて、この試みは始められた。
- ここが、第二の我が家になるように。そして、もし社会に出て失敗しても、病院ではなく、ここへ帰り再起をはかる場所となるようにと。

原点—平山寮の取り組み

病院を退院した寮生が
地域住民の強力な支援を受け
養豚・農業・漁業に取り組み
自主運営・自主管理を実践し
地域で自立生活の道へ



S49～S50年代にかけて、活発に活動。その後、中核になる寮生の自立などから徐々に低迷した。(制度的支援の無さも大きく影響)
しかし、愛南町の伝統文化“闘牛”を通じて地域住民とつながり続けたり、H8年からは住民活動の拠点としても、その理念と実践を細々とつないできた。



南宇和心の健康を考える会

目的:精神保健福祉の向上を図るため、関係機関が連携・協働し、普及啓発、調査研究、こころに関する事業を行う。

構成:精神保健福祉に関わる行政機関及び公共的団体の職員、医療関係者、社会復帰施設などの職員、家族会、当事者グループ、ボランティアグループ関係者、心の健康に関与する地域住民など

S60「愛媛県南予地区精神衛生大会」を契機に発足(S62年御荘保健所の強力なリーダーシップで)

年4～6回定例会(研修会)、年1回大会、ニーズ調査等心の健康全般をテーマに取り上げきたフォーマルネットワーク。各団体が「事業」として位置づけ。～安定した組織

南宇和(精神)障害者の社会参加を進める会

• 目的

なんぐんにおける精神障害者の社会参加を促進するため、必要な支援活動を行うことにより、これらの人々の福祉の増進をはかる

• 事業

- 1 精神障害者への理解向上と偏見除去の為の啓発活動
- 2 地域のボランティア育成の為の活動
- 3 就労援助の活動
- 4 住む場・集い憩う場の確保の為の支援
- 5 地域における「心の健康」の推進活動
- 6 その他必要な事業



シンボルマーク“牛鬼”
郷土の版画家 兵頭俊朗 画

- H元年設立。個人会員1303名。会長(町長)、
副会長(ライオンズクラブ会長、地元精神科病院長)

- 事務局(御荘保健所→H15年地域生活支援センターいろいろ)

～官民一体から住民・当事者主体へ～
～精神障害から三障害へ～H18年